行政視察報告書　　建設経済環境委員会　　　2018年8月1日(水)

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　11番　石井通春

|  |  |
| --- | --- |
| 視察先 | 東京都武蔵野市 |
| 研修テーマ（調査項目） | 清掃工場（ごみ焼却場） |
| 1. 取組の内容評価   ・人口14万と本市と人口規模は同じ  ・三鷹市と一部事務組合から市単独での運営に変更  ・運営費20年間で100億　建設は111億  ・昭和59年に1代目が完成した後、現在の二代目が誕生して1年3か月（新しい）  ・60㌧　二炉　ストーカー式  ・人口が増えている中でもごみの減少が図られている  ・設計製造；荏原環境プラント、運営むさしのEサービス（特別目的会社）DBO方式   1. 今後の課題   ・事業系ごみの減少が原料の大きな原因との事だが、有料化値上げ（20円から40円）と、安い手数料で民間の引き受け手がある中での実現であった。  ・市役所隣の場所での工場は相当厳しい安全基準でなければ住民合意は得られない。担当者曰く、「全国で最も厳しい基準」との事だが、それがどの程度のものか。どれだけであれば理解が得られるものであるか。  ・一部事務組合時は三鷹市のゴミをなぜ武蔵野が引き受けなければならないという意見の元であり、危機受ける側であれば単独化は簡単であろう。   1. 本市に反映できると思われる点   ・視察対象外である事業系ごみの資源化民間施設（生ごみのバイオ発電）がどの程度のものであるか、こちらも興味がある。  ・不燃ごみも一手に引き受けている。破砕して選別し資源化もするが、廃プラ、木くずが燃やしているとの事。この方式は本市、志広組が取り組もうとしている不燃ごみの資源化と逆行するのでは  ・焼却灰は運搬して（4億円の負担）資源化との事だが、埋め立ては行っていない。金属が５％混ざるのを防ぐために廃選別装置を設置（最新鋭とか）しているが、それを設置しなくてもエコセメントとなるとの説明であった。それが可能であるのか。運搬先の問題か。   1. その他 | |